



らしつよチャレンジ 2022

～人形劇団クラルテとの若者の人形劇認知向上に向けた取り組み～

事業の目的

人形劇に関心を向け鑑賞を楽しむ若者を増加させるための方策を、プロ劇団である人形劇団クラルテとの連携により構築する。

作品紹介「お気に召すまま」

劇作家ウィリアム・シェイクスピア作の喜劇。あたりまえ、ありのままに生きることが難しくなっている時代だからこそ、自由奔放に生きる楽しさを描いた作品。当作品の脚本家である東口次登さんはコロナ禍で閉鎖的な空間である今だからこそ元気を出してほしいという願いから喜劇であるお気に召すままを選んだという。また異性同士、同性同士と多様な4つのカップルが登場する作品である「お気に召すまま」を通して、まだLGBTQや多様性の生き方の受容が薄い日本で多様な愛し方を表現することを目指した作品となっている。

活動の様子

6月

6月 台本読み合わせ
声に出して読むことで情景が浮かびやすくなり、実際の舞台での演出や表現に対する期待が高まった。

7月

7月12日 アンケート集計
若者の人形劇に対するイメージについてアンケートを用いて調査した。



7月19日 報告会
人形劇の価値や、若者の人形劇に対するイメージについて、人形劇団クラルテの方と意見を交換し合い、今回の公演に反映していただいた。

8月

8月1日
人形劇団クラルテのアトリエ見学
製作の途中段階である人形や、衣装を実際に目にする事で仕組みを理解し、様々な工夫と技術が詰め込まれていることを実感した。



9月25、27日 通し稽古見学
発声練習から演技や立ち位置の確認といった細かなところまで見学することができた。

9月

10月5～10日
「お気に召すまま」観劇
当日は表方として参加させていただき、観劇をした。一つ一つの人形の存在価値を実感しながら観ることができた。



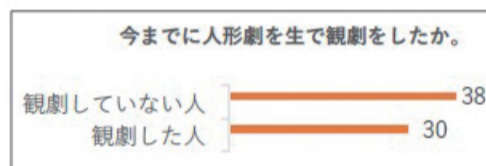
2月

2月1日
大人の人形劇の今後や若者の人形劇への関心を増加させるためにどうしたらよいか、人形劇団クラルテの方と再度意見交換をしあった。

事業の成果

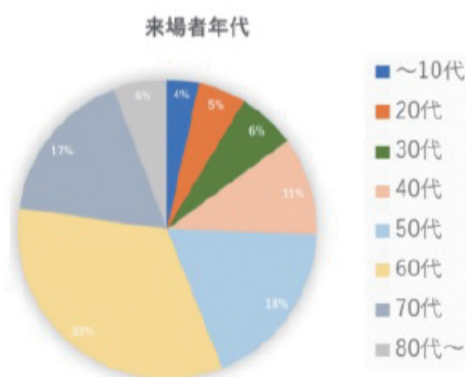
- ・アンケート結果や自分たちの意見をもとにクラルテの代表・制作・役者の方々と意見交換をし、今回の公演にあたって反映していただくことができた。
- ・脚本の読み合わせ、アトリエや通し稽古の見学を経て作品への理解を深めた。
- ・大人向けの人形劇に対して興味を持ち、価値を再確認することができた。
- ・当日、観客に若者が少ない現状を実際に目にし、改めて原因を考察した上で大人向けの人形劇の今後について話し合った。

アンケート結果



京都女子大学児童学科3年生への調査結果

観劇した人は小学生以下に見に行ったことが多く、それ以降は見に行っていないという人も多いように見受けられた。



人形劇「お気に召すまま」来場者への調査結果

来場者の3分の1が50代以上を占めている。一方で20代以下は1割にも満たしていない。

今後の活動・見通し

私たちのような人形劇に携わる人間、人形劇の魅力を知っている人間が人形劇の魅力語り継ぎ広めていく必要があることを実感した。人形劇が子どもだけのものであるというイメージを払拭し、人形劇を楽しむ大人も増える社会にしていきたい。

